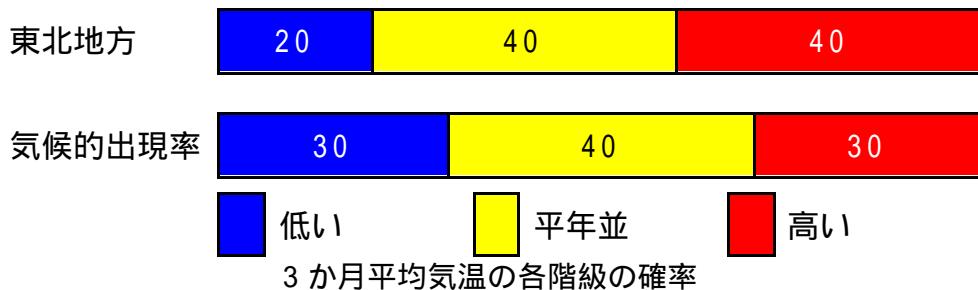


東北地方 3か月予報(7~9月)の解説

平成12年6月20日 仙台管区気象台

1. 予想される天候

(1) 3か月平均気温の予想される各階級の確率(%)



[概要]

7~9月の3か月平均気温は「平年並」か「高い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「低い」の可能性は小さく、その確率は20%です。

(2) 可能性の大きな天候の特徴

	7月	8月	9月
天候	東北地方は低気圧や前線の影響を受け曇りや雨の日が多いですが、前線の活動が弱まって晴れる時期があるでしょう。また、梅雨明け後は太平洋高気圧に覆われて晴れるため、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。	東北地方は平年と同様に太平洋高気圧に覆われ晴れの日が多いですが、寒気や前線の影響で天気のぐずつく時期があるでしょう。	東北地方は平年と同様に高気圧と低気圧が交互に通り天気は周期的に変わりますが、前線の影響で天気のぐずつく時期があるでしょう。
気温	高い	平年並	平年並
降水量	平年並	平年並	平年並

なお、7~9月の3か月間の降水量は「平年並」の可能性が大きいでしょう。

<参考資料>

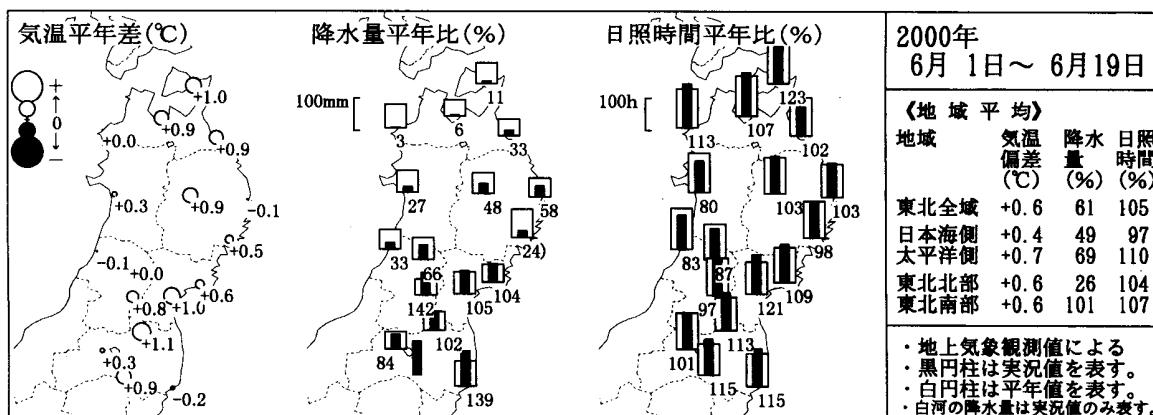
平年のおおよその天気出現割合(%)

	7月		8月		9月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	50	44	62	55	53	49
雨の日	36	36	31	33	42	39

注：季節予報では、「日照率 40%以上の日数」、「日降水量 1mm 以上の日数」を晴れの日、雨の日の目安として用いている。この2つの事象は同じ日に起こりうるため、両方に数えられる日もある。日照率は、1日の日照時間を可照時間（太陽の中心が東の地平線に現れてから西の地平線に没するまでの時間）で割った値である。

2. 最近の天候経過と循環場の特徴

(1) 最近の天候経過



東北地方における6月(1~19日まで)の平均気温、降水量、日照時間平年差(比)

6月(19日まで): この期間の平均気温平年差は東北地方で+0.6と平年を上回った。降水量平年比は、東北北部で26%と平年を大きく下回り、東北南部で101%と平年を上回った。日照時間平年比は、東北地方で105%と平年を上回った。

上旬、東北地方は高気圧に覆われ晴れる日が多かったが、3~4日には上空に一時寒気が入り、にわか雨や雷雨となるところもあった。また、8日以降は梅雨前線の影響を受け東北南部では曇りの日が続き、9日には低気圧が通過したため東北地方は雨となった。

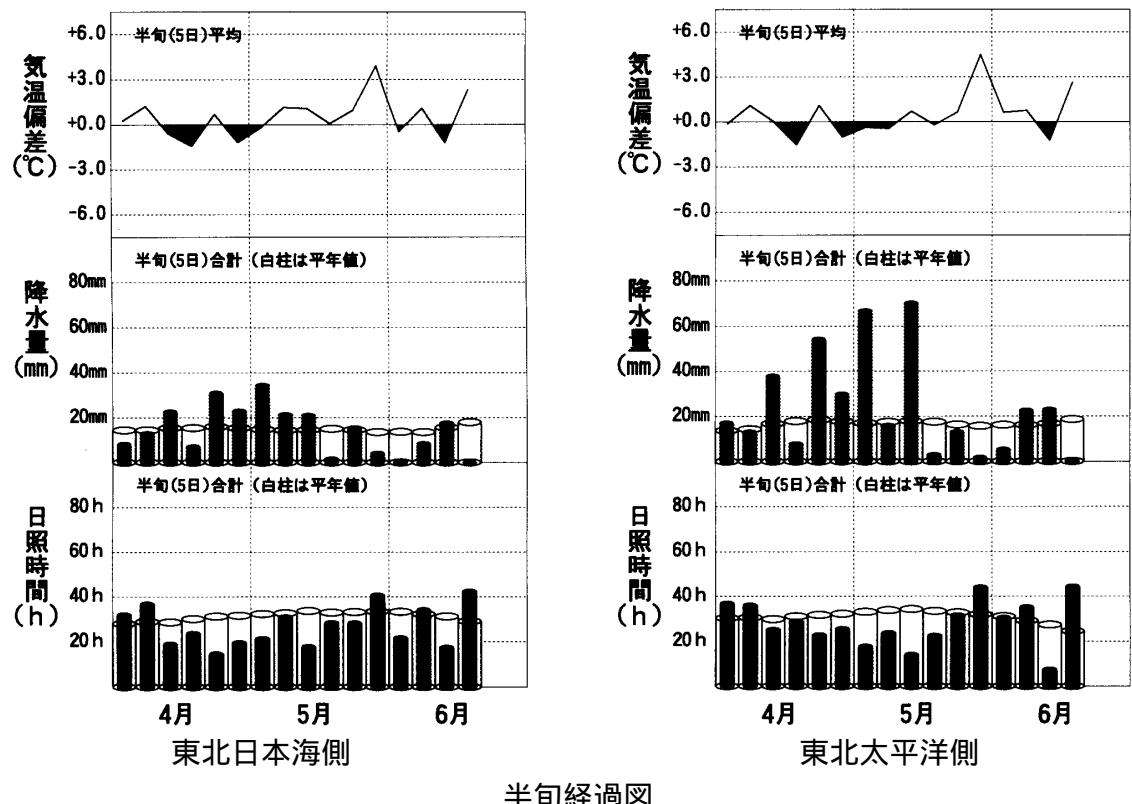
上旬の平均気温平年差は東北地方で+0.2と平年並だった。降水量平年比は、東北北部で30%とかなり少なく、東北南部で82%と平年並だった。日照時間平年比は、東北地方で106%と平年並だった。

中旬(19日まで) 東北南部は14日まで梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かったが、その後は高気圧に覆われおおむね晴れた。東北北部は14日に低気圧の影響で雨となつたが、その他の日は概ね晴れた。

中旬の平均気温平年差は東北地方で+0.9と平年を上回った。降水量平年比は、東北北部で25%と平年を大きく下回り、東北南部で113%と平年を上回った。日照時間平年比は、東北北部で113%と平年を上回り、東北南部で96%と平年を下回った。

なお、東北南部は6月11日頃梅雨入りしたと見られると発表した。

また、東北北部では5月半ばから少雨傾向が続いており、6月19日に「東北北部の少雨に関する東北地方気象情報第1号」を発表した。

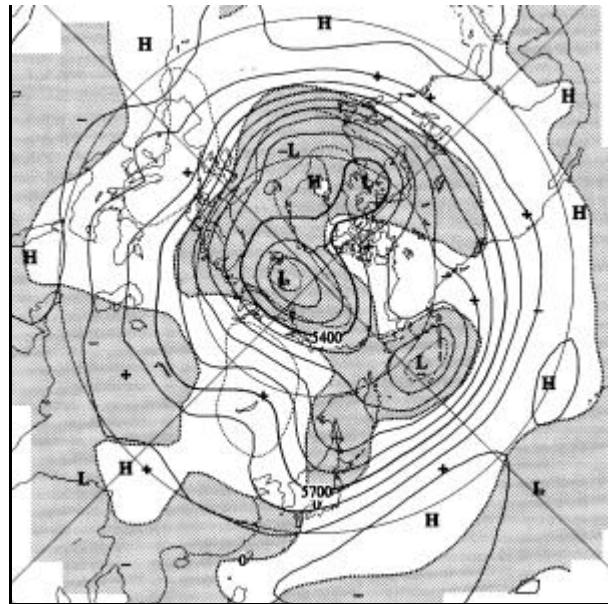


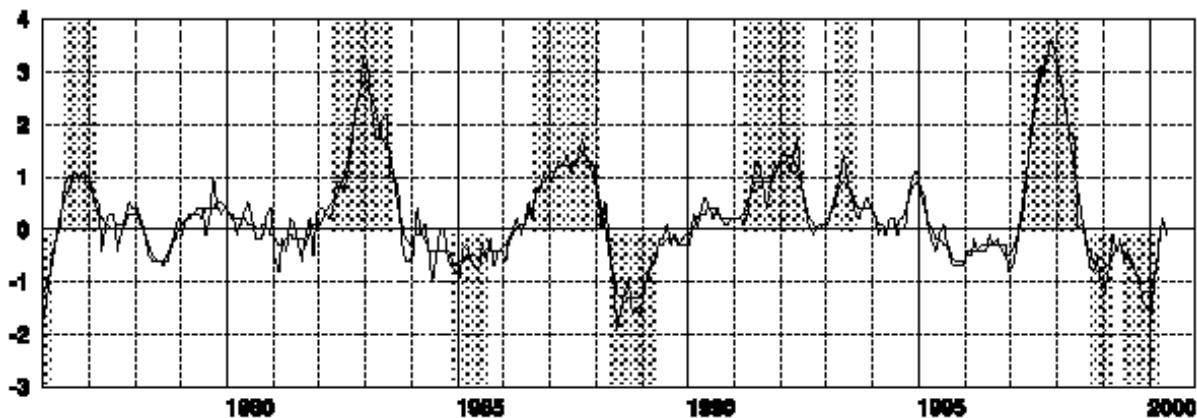
半旬経過図

(2) 中・高緯度の循環

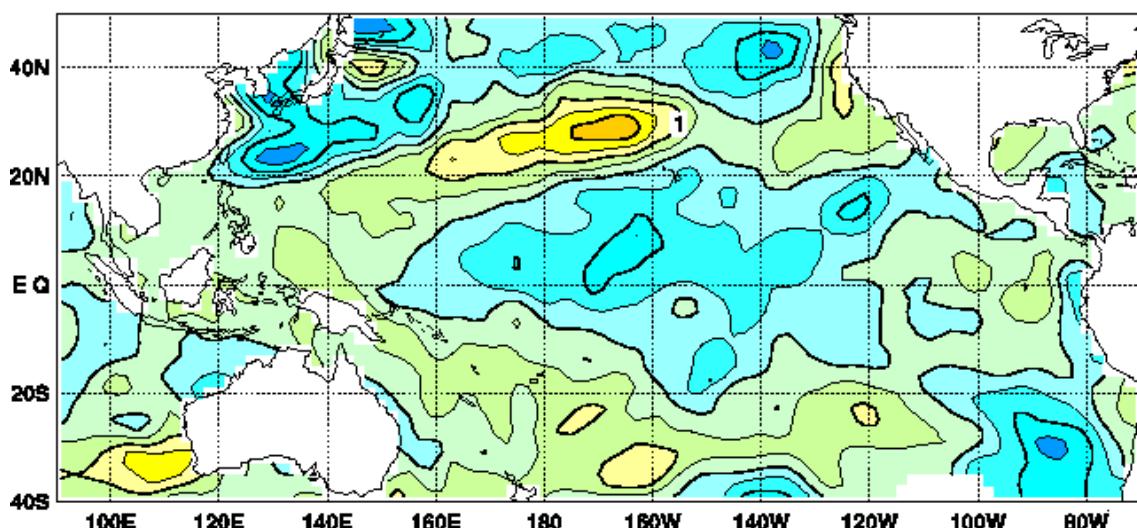
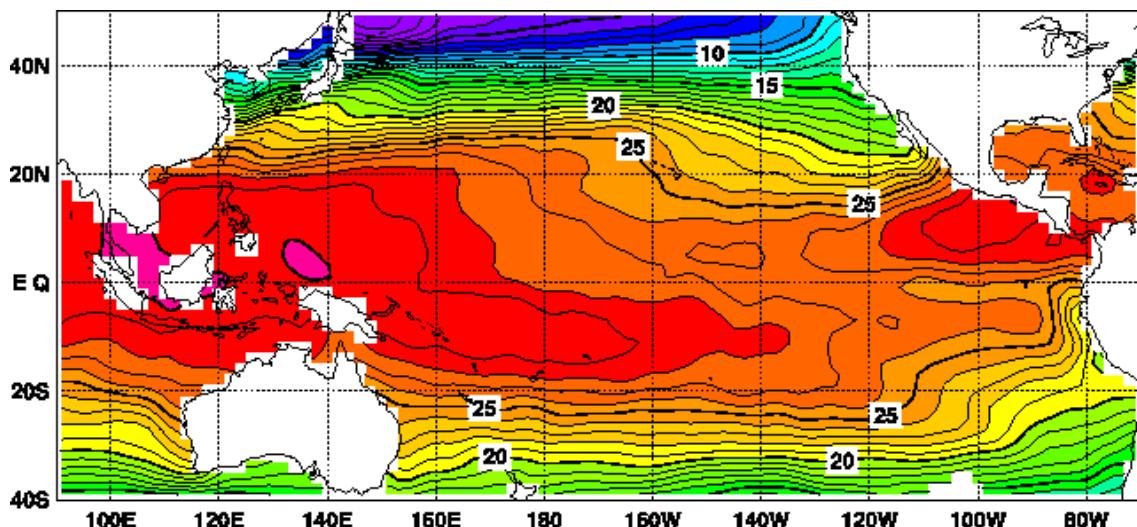
6月(19日まで): バイカル湖付近は強い正偏差で、日本付近は弱い負偏差となった。偏西風は、日本付近で大きく蛇行しており、上旬に一時寒気が南下してにわか雨や雷雨となつた。

また、日本の南東海上では太平洋高気圧の勢力が平年に比べて強く、日本付近の偏西風の流れの場は西谷となって、低気圧や前線の影響を受ける時期もあった。





エルニーニョ監視海域の月平均海面水温偏差（）の推移（1976年1月～2000年5月）
 折線は月平均値、滑らかな太線は5か月移動平均値を示し、正の値は平年（1961～90年の30年平均値）より高いことを示す。エルニーニョ現象の発生期間は正偏差で、ラニーニャ現象の発生期間は負偏差で、それぞれ陰影を施してある。



注：海面水温の平年値は、1961～1990年の30年平均値である。

2000年5月の海面水温図（上）及び平年偏差図（下）

海面水温図の太線は5毎、細線は1毎の、平年偏差図の太線は1毎、細線は0.5毎の等值線を示す（平年は1961～90年の30年平均値）

(4) エルニーニョ監視海域の海面水温の今後の見通し(2000年6月～2000年12月)

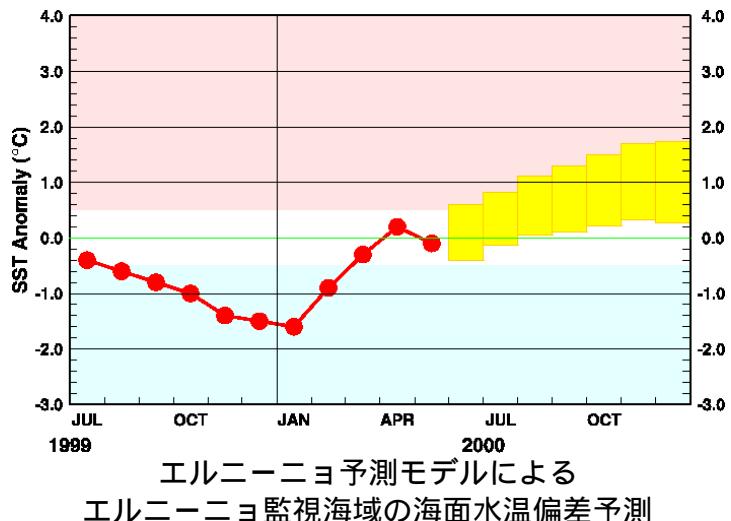
エルニーニョ監視海域の海面水温は、今後平年並から次第にやや高いあるいは高い状態に移行すると予測される。

【解説】

太平洋赤道域の海面水温は、5月も依然広い範囲で負偏差になっているが、海洋表層では西経150度以東の100m以浅で負偏差が4月より弱まった。また、南方振動指数も+0.3と4月より0に近づき、大気・海洋ともに平年の状態に戻りつつある。

エルニーニョ予測モデルは、監視海域の海面水温が夏季から冬季にかけて、次第に平年並から高い状態へ移行すると予測している(右図)。

太平洋の赤道に沿った海面から深度260mまでの平均水温平年偏差の経度-時間断面図(略)で、正偏差域がゆっくりと東方に拡大していることに見られるように、現在の太平洋赤道域表層内における水温変化は緩やかで、今後数か月以内に急激な変化が発生する可能性は小さいものの、監視海域の海面水温は夏季から冬季にかけて平年並から次第にやや高いあるいは高い状態に移行すると予測される。



エルニーニョ予測モデルによる
エルニーニョ監視海域の海面水温偏差予測

3. 前回(5月22日)発表の3か月予報からの変更点

7月 気温 平年並 高い 降水量 東北太平洋側 多い 平年並

4. 前回(5月22日)の3か月予報解説資料の訂正

前回(5月22日)の3か月予報解説資料に掲載した「梅雨入り・明け日と梅雨期間降水量(mm)」で、1999年の梅雨入り・明け日が間違っていましたので再度掲載します。

梅雨入り・明け日と梅雨期間降水量(mm)

年	東北南部					東北北部				
	梅雨入り	梅雨明け	山形	仙台	福島	梅雨入り	梅雨明け	青森	秋田	盛岡
1951	6月04日	7月18日	116.0	222.7	186.0	6月10日	7月23日		165.3	221.5
1952	6月23日	7月20日	211.8	194.2	168.3	6月30日	7月20日		171.1	164.2
1953	6月05日	7月26日	212.9	336.0	269.7	6月05日	7月28日		315.2	298.2
1954	6月06日	7月23日	270.0	477.4	377.1	6月11日	8月01日		165.6	142.0
1955	6月15日	7月08日	184.0	162.0	113.3	6月15日	7月09日		312.2	215.4
1956	6月20日	7月24日	332.4	405.2	437.1	6月20日	7月25日	132.2	262.7	261.3
1957	6月18日	7月29日	280.8	311.4	269.9	6月18日	8月10日	160.2	381.3	261.1
1958	6月08日	7月14日	85.3	138.4	116.0	6月11日	8月01日	226.2	410.0	392.6
1959	6月01日	7月25日	343.7	356.3	330.8	6月07日	7月25日	160.6	413.8	345.2
1960	6月21日	7月17日	127.9	120.6	123.8	6月27日	7月18日	65.8	180.9	116.0
1961	6月21日	7月20日	169.4	217.4	211.6	6月24日	7月28日	215.1	341.3	310.1
1962	6月03日	7月22日	296.5	253.7	309.7	6月03日	7月25日	82.8	244.4	221.3
1963	6月03日	7月26日	247.2	298.8	361.1	6月19日	7月27日	247.8	286.5	236.9
1964	6月08日	7月22日	309.1	329.3	231.8	6月08日	7月25日	246.6	296.2	213.6
1965	6月14日	7月24日	301.6	306.7	266.9	6月18日	8月06日	268.1	381.4	379.8
1966	6月04日	7月25日	405.6	370.9	347.6	6月16日	8月07日	348.7	537.0	437.3
1967	6月26日	7月15日	88.9	161.3	127.1	7月03日	7月18日	46.3	114.2	102.9
1968	6月16日	7月19日	142.5	173.0	230.0	6月20日	7月23日	34.0	98.5	149.0
1969	6月17日	7月14日	87.5	149.0	164.5	6月22日	7月14日	20.0	55.5	79.0
1970	6月15日	7月20日	76.0	106.0	78.0	6月18日	7月20日	71.5	98.5	112.0
1971	6月03日	7月29日	233.0	244.0	194.0	6月11日	7月30日	162.5	368.5	336.5
1972	6月12日	7月30日	163.0	207.0	135.5	6月20日	8月06日	211.5	335.0	325.5
1973	6月06日	7月13日	136.0	89.0	83.5	6月07日	7月13日	37.0	32.0	50.0
1974	6月04日	7月26日	263.0	381.5	338.0	6月06日	8月03日	289.0	375.5	396.5
1975	6月05日	7月16日	124.0	158.5	206.0	6月12日	7月19日	147.5	275.0	277.5
1976	6月05日	7月22日	229.5	234.5	155.5	6月08日	7月23日	98.0	177.5	125.5
1977	6月11日	7月22日	136.0	195.0	166.5	6月11日	7月22日	111.0	126.5	145.0
1978	6月11日	7月05日	166.0	142.0	214.5	6月11日	7月08日	176.0	215.5	105.5
1979	6月08日	7月30日	337.5	303.0	267.5	6月08日	8月08日	330.5	751.5	574.0
1980	6月08日	7月22日	284.0	342.5	232.0	6月09日	8月03日	165.0	327.5	377.5
1981	6月11日	7月16日	248.0	233.0	263.5	6月11日	7月17日	239.5	527.0	276.5
1982	6月23日	8月07日	177.5	209.5	218.0	6月24日	8月07日	55.5	255.5	126.5
1983	6月13日	7月27日	213.5	387.5	271.0	6月13日	7月29日	128.5	229.0	257.0
1984	6月10日	7月22日	115.5	168.0	122.0	6月10日	7月22日	124.5	285.0	307.5
1985	6月08日	7月16日	199.0	356.0	302.0	6月08日	7月19日	152.0	295.5	261.5
1986	6月17日	7月28日	246.0	311.5	163.5	6月17日	7月28日	170.5	227.0	305.5
1987	6月25日	8月09日	237.5	179.0	104.5	6月27日	8月09日	242.0	401.0	230.0
1988	6月09日	7月31日	191.0	372.5	276.5	6月09日	7月31日	123.5	81.5	147.0
1989	6月15日	7月21日	106.0	231.0	150.0	6月15日	7月21日	72.5	83.0	80.0
1990	6月15日	7月20日	187.0	215.5	178.5	6月15日	7月27日	166.5	501.5	463.5
1991	6月10日	7月27日	395.5	451.0	378.0	6月10日	8月14日	371.0	705.0	564.0
1992	6月08日	7月24日	240.5	238.0	352.5	6月08日	7月29日	125.0	143.0	209.5
1993	6月03日	特定しない	-	-	-	6月03日	特定しない	-	-	-
1994	6月19日	7月12日	114.0	114.5	95.0	6月19日	7月13日	94.5	155.5	89.5
1995	6月03日	7月23日	244.0	263.0	262.5	6月14日	7月23日	95.0	224.0	305.0
1996	6月10日	7月24日	162.5	239.5	169.0	6月11日	8月06日	188.0	341.5	320.5
1997	6月02日	7月18日	382.5	366.5	242.0	6月02日	7月17日	130.0	226.0	225.0
1998	6月03日	特定しない	-	-	-	6月03日	特定しない	-	-	-
1999	6月16日	7月24日	287.5	482.5	462.0	6月16日	7月26日	136.5	165.0	238.5
平年	6月12日	7月23日				6月14日	7月26日			

注1) 入り、明けの時期(平年値も含む)は掲載した日付に「頃(ころ)」を付けて読み替える。

注2) 平年は、1961年から1990年の平均値である。

注3) 「梅雨入り(明け)が早い・遅い」は遷移期間の概ね中日で比較して、平年との隔たりが4日以上の時(東北北部、南部共に)をいう。

注4) 梅雨期間の日数について、入り明けの時期は遷移期間の概ね中日をとり「~頃」として発表しているため、統計を行わない。

注5) 各年の降水量は日単位の降水量の合計値(入りの時期の概ね中日から明けの時期の概ね中日の前日まで)

注6) 梅雨期間の降水量について、各年の梅雨期間の長さ、入り明けの時期が異なるため、平年値の統計は行わない。

そのため、平年比は使用できない。同様の理由で昨年比も使用できない。